

札幌青葉鍼灸柔整専門学校

実務経験のある教員による授業

鍼灸学科昼間部 シラバス

鍼灸学科・昼間1部・1年（医療概論）

科目名	医療概論	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療の歴史を学びながら、はり師・きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	歴史を通して現代の医療を考察し、日本や海外の医療費の仕組みの違い、日本における医療従事者の数と仕事内容、後期高齢者医療制度や高齢者の医療と福祉について学び、往診経験を持つ専任教員が実際の医療費における鍼灸の適応症などを踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論	著者名	中川米造監修
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間1部・1年（医療概論）

回	講義内容	備考
1	現代の医学と医療・医療と社会・鍼灸の適応	
2	医療従事者と医療経済・医療保険の仕組み	
3	公費医療負担・介護サービス・医療倫理	
4	練習問題	
5	練習問題	
6	練習問題	
7	練習問題	
7.5	期末試験	

鍼灸学科・昼間1部・1年（はりきゅう理論Ⅰ）

科目名	はりきゅう理論Ⅰ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	本講では、主に鍼灸の基礎知識の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、まず「はりきゅう理論Ⅰ」では、その治効理論を学ぶための基礎となる、鍼灸の施術方法、リスク管理、人体の感覚機能等についての理解を深めていく。		
授業内容	①鍼灸の基礎知識、②刺鍼の方式と術式、③特殊鍼法、④灸の基礎知識、⑤灸術の種類、⑥鍼灸の臨床応用、⑦リスク管理、⑧鍼灸治効の基礎等を学ぶ。これらの項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などを踏まえアドバイスをし、習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	(公社)東洋療法学校協会編
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間1部・1年（はりきゅう理論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用	
7	リスク管理	
8	中間試験	
9	鍼灸治効の基礎①	
10	鍼灸治効の基礎②	
11	鍼灸治効の基礎③	
12	鍼灸治効の基礎④	
13	鍼灸治効の基礎⑤	
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・昼間1部・1年（東洋医学概論Ⅰ）

科目名	東洋医学概論Ⅰ	時間・単位	2単位・30時間(15コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎的な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅱとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象(臓腑の生理機能)とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学理論の基礎 ・整体観念や精気・陰陽・五行の諸学説 ・東洋医学的な人体の捉え方である蔵象と病因・病機 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学[基礎編]	著者名	劉 公望 ・ 兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間1部・1年（東洋医学概論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	東洋医学の沿革・起源・発展	
2	陰陽学説	
3	五行学説	
4	精と神・気・血・津液の生理作用	
5	気・血の病理	
6	津液・陰陽の病理	
7	中間試験	
8	蔵象学説(肝・心)	
9	蔵象学説(脾・肺)	
10	蔵象学説(腎)	
11	蔵象学説(胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦)	
12	病因病機①	
13	病因病機②	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間1部・1年（東洋医学概論Ⅱ）

科目名	東洋医学概論Ⅱ	時間・単位	2単位・30時間(15コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎的な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅰとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象(臓腑の生理機能)とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に現れている症状や徴候といった変化の把握 ・弁証論治 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学[基礎編]	著者名	劉 公望・兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間1部・1年（東洋医学概論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	八綱の概要	
2	気・血・津液・陰陽の病理	
3	五臓の病証	
4	五臓の病証	
5	五臓の病証	
6	六腑の病証	
7	中間試験	
8	複合病証	
9	経絡病証	
10	奇経八脈病証	
11	六経弁証	
12	衛気營血弁証	
13	三焦弁証	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間1部・1年（経絡経穴概論Ⅰ）

科目名	経絡経穴概論Ⅰ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。 本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。		
授業内容	教科書に基づき十四経の流注と、361穴の経穴の名称・所属経絡と取穴部位等を学び、鍼灸の臨床経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間1部・1年（経絡経穴概論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	体表指標と骨度法	
2	督脈(38穴)・任脈(24穴)	
3	手の太陰肺経(11穴)	
4	手の陽明大腸経(20穴)	
5	足の陽明胃経(45穴)	
6	足の太陰脾経(21穴)	
7	手の少陰心経(9穴)・手の太陽小腸経(19穴)	
8	中間試験	
9	足の太陽膀胱経(67穴)①	
10	足の太陽膀胱経(67穴)②	
11	足の少陰腎経(27穴)	
12	手の厥陰心包経(9穴)・手の少陽三焦経(23穴)	
13	足の少陽胆経(44穴)	
14	足の厥陰肝経(14穴)	
15	期末試験	60点以下のものには再試験を行う

鍼灸学科・昼間1部・1年（経絡経穴概論Ⅱ）

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。 本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき経絡経穴概論Ⅰの復習と経穴に相関している筋や支配神経等、各部位の横並びを学ぶ。臨床経験を持つ専任教員が取穴を行いながら患者さんに対する適応例や成功例、経穴の使い方などを踏まえて講義する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間1部・1年（経絡経穴概論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	奇経八脈	
2	奇穴	小テストを行う
3	経絡経穴Ⅰの復習	小テストを行う
4	経絡経穴Ⅰの復習	小テストを行う
5	要穴・骨度の復習	小テストを行う
6	4択練習問題	小テストを行う
7	中間試験	
8	胸腹部の解剖と経穴	
9	腰背部の解剖と経穴	小テストを行う
10	腕の解剖と経穴	小テストを行う
11	足の解剖と経穴	小テストを行う
12	頭の解剖と経穴	小テストを行う
13	まとめ	小テストを行う
14	期末試験練習問題	小テストを行う
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間1部・1年（あはきの適応の判断）

科目名	あはきの適応の判断	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学と東洋医学の基礎理論、および臨床の知識は、将来、医療現場で医療従事者として必要不可欠である。しかしながら臨床現場では、複合的な持病をもっている患者もやって来る。正しく対応するためには、正しい適応判断が必要である。当科目においては、臨床現場で正しく診断、そして質の高い診療活動が出来るよう、適応不適応の判断が出来るようになることが目的である。		
授業内容	「鍼灸不適応疾患の鑑別と対策」を参考書とし、「臨床医学各論」に記載されている疾患等が鍼灸の適応か不適応かを判断できるように、開業経験を持つ担当教員が実際に鍼灸院で起こった冷りハツとした事例など踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸不適応疾患の鑑別と対策	著者名	代田文彦ほか
		出版社名	医道の日本社

鍼灸学科・昼間1部・1年（あはきの適応の判断）

回	講義内容	備考
1	鍼灸治療の適応の条件および感染症	WHOの見解
2	消化器系疾患(肝・胆・膵の疾患含む)	症例①～③
3	呼吸器系疾患	症例④～⑥
4	泌尿器系疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患	症例⑦
5	整形外科疾患	徒手検査法
6	整形外科疾患	徒手検査法
7	整形外科疾患	症例⑧、⑨
8	整形外科疾患	症例⑩、⑪
9	整形外科疾患	症例⑫、⑬
10	整形外科疾患	症例⑭、⑮
11	循環器系疾患、血液・造血系疾患	症例⑯～⑰
12	神経系疾患	症例⑱～㉑
13	膠原病、その他の疾患	症例㉒～㉔
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・昼間1部・1年（生体観察）

科目名	生体観察	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。		
授業内容	<p>鍼灸師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。鍼灸の臨床経験をいかし、以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭顔面部 2. 頸部 3. 体幹 4. 上肢 5. 下肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間1部・1年（生体観察）

回	講義内容	備考
1	運動器とは	小テスト
2	上肢帯・肩	小テスト
3	上腕・前腕	小テスト
4	手	小テスト
5	上肢まとめ	小テスト
6	中間試験①	
7	大腿	小テスト
8	下腿	小テスト
9	足	小テスト
10	下肢まとめ	小テスト
11	中間試験②	
12	体幹	小テスト
13	頭顔頸部	小テスト
14	体幹・頭顔頸部まとめ	小テスト
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅰ）

科目名	基礎実技Ⅰ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>先ずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする</p>		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、消毒などの公衆衛生知識、鍼灸治療の過誤と副作用、予防、処置、挿管法（両手挿管法、片手挿管法）、刺鍼の知識（前揉法、押手、切皮、刺入、後揉法）、各種刺法とシリコンゴムへの刺入について学んでいく。</p> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指および刺鍼部の消毒	
3	鍼具の消毒法・滅菌法	
4	鍼治療の過誤と副作用、予防と処置	
5	現行刺鍼の方法（管鍼法の操作）	
6	刺鍼手技①（単刺術、直刺、斜刺、横刺）	
7	刺鍼手技②（置鍼術、雀啄術）	
8	刺鍼手技③（回旋術、旋撚術、刺鍼転向法）	
9	刺入の手順（各自の足への刺入）	
10	各自の足への刺入	
11	各自の足への刺入	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	刺入の手順（他人への手足への刺入）	
15	足への刺鍼（胃経への刺鍼）	
16	手への刺入（大腸経への刺鍼）	
17	足への刺入（脾経への刺鍼）	
18	手への刺入（心包経、三焦経への刺鍼）	
19	手足への刺鍼まとめ	
20	手足への刺鍼まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅱ）

科目名	基礎実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。 まずは施灸板で米粒大と半米粒大を正確に作成し、点火する。次に人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。		
授業内容	鍼灸の臨床現場で灸施術をどの様に使用しているか、治療効果など現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。 主に、以下の項目について学んでいく。 1. 灸の概要(起源、分類、製造過程、灸治療の過誤と副作用、予防、処置) 2. 練習板を使い、米粒大・半米粒大を5分間で20壮施灸 3. 有根灸(透熱灸、知熱灸〔瞬間灸〕) 4. 上肢の要穴の取穴と施灸。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指洗浄と消毒、板を使っての施灸練習	
3	艾炷の点火、5分で10壮練習	
4	5分で10壮練習	
5	5分で10壮練習	
6	5分で15壮練習	
7	5分で15壮練習	
8	到達試験①	
9	自分の身体への施灸	
10	5分で20壮練習	
11	5分で20壮練習	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	他人の身体への施灸	
15	他人の身体への施灸	
16	他人の身体への施灸	
17	他人の身体への施灸	
18	他人の身体への施灸	
19	他人の身体への施灸	
20	他人の身体への施灸	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅲ）

科目名	基礎実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の實務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>先ずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>経絡経穴概論と図解 鍼灸臨床手技マニュアルの教科書に基づき、基礎実技Ⅰの復習と手足の五要穴への正確な取穴と刺針を行う。臨床で最も多い肩・首・腰の主要経穴への刺針を行う。臨床経験を持つ専任教員が、鍼灸の現場経験を活かし、た視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	基礎実技Ⅰの復習	
2	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(太陽経)	
3	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(少陽経)	
4	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(陽明経)	
5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(太陰経)	
6	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(少陰経)	
7	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(厥陰経)	
8	まとめ	
9	中間試験練習	
10	中間試験①	
11	中間試験②	
12	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼①	
13	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼②	
14	腰部の常用穴の刺鍼①	
15	腰部の常用穴の刺鍼②	
16	頸部の常用穴の刺鍼①	
17	頸部の常用穴の刺鍼②	
18	背部、肩関節周囲の常用穴刺鍼のまとめ	
19	腰部の常用穴の刺鍼のまとめ	
20	頸部の常用穴の刺鍼	
21	期末試験練習	
22	期末試験①	
22.5	期末試験②	

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅳ）

科目名	基礎実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。 人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴・背部愈穴・募穴等に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。		
授業内容	開業経験を持つ担当教員が、実際の患者へ施していた赤羽刺法、澤田流灸法、深谷灸法などの各種灸法を、実践に即した形で学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間1部・1年（基礎実技Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	粗艾による知熱灸	
2	粗艾による知熱灸	
3	他人の下肢への施灸	脾経の原・郄・絡
4	他人の下肢への施灸	胃経の原・郄・絡
5	他人の下肢への施灸	腎経の原・郄・絡
6	他人の下肢への施灸	膀胱経の原・郄・絡
7	他人の下肢への施灸	肝経の原・郄・絡
8	他人の下肢への施灸	胆経の原・郄・絡
9	総合練習	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	背部への施灸	
13	背部への施灸	
14	背部への施灸	
15	腹部への施灸	
16	腹部への施灸	
17	腹部への施灸	
18	総合練習	
19	総合練習	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・昼間1部・1年（総合領域Ⅰ）

科目名	総合領域Ⅰ	時間・単位	180時間・6単位・90コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生に対し、1年次に学ぶすべての分野において総合的に復習し、ベースとなる基礎医学の修得を目的とする。また、医療者としての心得や東洋医学的思考の基礎づくりも合わせて行うものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業を行う。</p> <p>総合領域Ⅰ①：基礎学習 総合領域Ⅰ②：東洋医学領域の復習 総合領域Ⅰ③：西洋医学領域の復習</p> <p>上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅰ①～③それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間1部・1年（総合領域Ⅰ）

回	日付	講義内容	回	日付	講義内容	回	日付	講義内容
1	4/6	基礎学習①	31	7/28	東洋①	61	12/23	東洋⑯
2	4/6	基礎学習②	32	7/28	西洋①	62	1/28	西洋⑯
3	4/6	基礎学習③	33	8/25	東洋②	63	2/1	東洋⑰
4	4/7	基礎学習④	34	8/25	西洋②	64	2/2	西洋⑰
5	4/7	基礎学習⑤	35	8/27	東洋③	65	2/3	東洋⑱:中間試験②
6	4/8	基礎学習⑥	36	8/31	西洋③	66	2/4	西洋⑱:中間試験②
7	4/8	基礎学習⑦	37	9/1	東洋④	67	2/8	東洋⑲
8	4/8	基礎学習⑧	38	9/1	西洋④	68	2/8	西洋⑲
9	4/10	基礎学習⑨	39	9/3	東洋⑤	69	2/9	東洋⑳
10	4/10	基礎学習⑩	40	9/7	西洋⑤	70	2/10	西洋㉑
11	4/14	基礎学習⑪	41	9/8	東洋⑥	71	2/12	東洋㉒
12	4/21	基礎学習⑫	42	9/8	西洋⑥	72	2/15	西洋㉒
13	4/28	基礎学習⑬	43	9/10	東洋⑦	73	2/15	東洋㉓
14	5/12	基礎学習⑭	44	9/14	西洋⑦	74	2/16	西洋㉓
15	5/19	基礎学習⑮	45	9/15	東洋⑧	75	2/17	東洋㉔
16	5/26	基礎学習⑯	46	9/15	西洋⑧	76	2/17	西洋㉔
17	6/2	基礎学習⑰	47	9/17	東洋⑨:中間試験①	77	2/18	東洋㉕
18	6/9	基礎学習⑱	48	9/24	西洋⑨:中間試験①	78	2/19	西洋㉕
19	6/16	基礎学習⑲	49	10/5	東洋⑩	79	2/22	東洋㉖
20	6/16	基礎学習⑳	50	10/12	西洋⑩	80	2/22	西洋㉖
21	6/23	基礎学習㉑	51	10/19	東洋⑪	81	2/24	東洋㉗
22	6/23	基礎学習㉒	52	10/26	西洋⑪	82	2/24	西洋㉗
23	6/30	基礎学習㉓	53	11/2	東洋⑫	83	2/25	東洋㉘:期末試験
24	6/30	基礎学習㉔	54	11/9	西洋⑫	84	2/26	西洋㉘:期末試験
25	7/7	基礎学習㉕	55	11/16	東洋⑬	85	3/1	東洋㉙
26	7/7	基礎学習㉖	56	11/30	西洋⑬	86	3/1	西洋㉙
27	7/14	基礎学習㉗	57	12/7	東洋⑭	87	3/2	東洋㉚
28	7/14	基礎学習㉘	58	12/14	西洋⑭	88	3/3	西洋㉚
29	7/21	基礎学習㉙	59	12/16	東洋⑮	89	3/3	東洋㉛
30	7/21	基礎学習㉚	60	12/21	西洋⑮	90	3/4	西洋㉛

鍼灸学科・昼間2部・1年（医療概論）

科目名	医療概論	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療の歴史を学びながら、はり師・きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	歴史を通して現代の医療を考察し、日本や海外の医療費の仕組みの違い、日本における医療従事者の数と仕事内容、後期高齢者医療制度や高齢者の医療と福祉について学び、往診経験を持つ専任教員が実際の医療費における鍼灸の適応症などを踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論	著者名	中川米造監修
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間2部・1年（医療概論）

回	講義内容	備考
1	現代の医学と医療・医療と社会・鍼灸の適応	
2	医療従事者と医療経済・医療保険の仕組み	
3	公費医療負担・介護サービス・医療倫理	
4	練習問題	
5	練習問題	
6	練習問題	
7	練習問題	
7.5	期末試験	

鍼灸学科・昼間２部・１年（はりきゅう理論Ⅰ）

科目名	はりきゅう理論Ⅰ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	本講では、主に鍼灸の基礎知識の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、まず「はりきゅう理論Ⅰ」では、その治効理論を学ぶための基礎となる、鍼灸の施術方法、リスク管理、人体の感覚機能等についての理解を深めていく。		
授業内容	①鍼灸の基礎知識、②刺鍼の方式と術式、③特殊鍼法、④灸の基礎知識、⑤灸術の種類、⑥鍼灸の臨床応用、⑦リスク管理、⑧鍼灸治効の基礎等を学ぶ。これらの項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などを踏まえアドバイスをし、習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	(公社)東洋療法学校協会編
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間２部・１年（はりきゅう理論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用	
7	リスク管理	
8	中間試験	
9	鍼灸治効の基礎①	
10	鍼灸治効の基礎②	
11	鍼灸治効の基礎③	
12	鍼灸治効の基礎④	
13	鍼灸治効の基礎⑤	
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・昼間2部・1年（東洋医学概論Ⅰ）

科目名	東洋医学概論Ⅰ	時間・単位	2単位・30時間(15コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎的な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅱとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象(臓腑の生理機能)とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学理論の基礎 ・整体観念や精気・陰陽・五行の諸学説 ・東洋医学的な人体の捉え方である蔵象と病因・病機 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学[基礎編]	著者名	劉 公望 ・ 兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間２部・１年（東洋医学概論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	東洋医学の沿革・起源・発展	
2	陰陽学説	
3	五行学説	
4	精と神・気・血・津液の生理作用	
5	気・血の病理	
6	津液・陰陽の病理	
7	中間試験	
8	蔵象学説（肝・心）	
9	蔵象学説（脾・肺）	
10	蔵象学説（腎）	
11	蔵象学説（胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦）	
12	病因病機①	
13	病因病機②	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間2部・1年（東洋医学概論Ⅱ）

科目名	東洋医学概論Ⅱ	時間・単位	2単位・30時間(15コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎的な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅰとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象(臓腑の生理機能)とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に現れている症状や徴候といった変化の把握 ・弁証論治 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学[基礎編]	著者名	劉 公望 ・ 兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間2部・1年（東洋医学概論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	八綱の概要	
2	気・血・津液・陰陽の病理	
3	五臓の病証	
4	五臓の病証	
5	五臓の病証	
6	六腑の病証	
7	中間試験	
8	複合病証	
9	経絡病証	
10	奇経八脈病証	
11	六経弁証	
12	衛気營血弁証	
13	三焦弁証	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間2部・1年（経絡経穴概論Ⅰ）

科目名	経絡経穴概論Ⅰ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。 本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。		
授業内容	教科書に基づき十四経の流注と、361穴の経穴の名称・所属経絡と取穴部位等を学び、鍼灸の臨床経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間2部・1年（経絡経穴概論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	体表指標と骨度法	
2	督脈（38穴）・任脈（24穴）	
3	手の太陰肺経（11穴）	
4	手の陽明大腸経（20穴）	
5	足の陽明胃経（45穴）	
6	足の太陰脾経（21穴）	
7	手の少陰心経（9穴）・手の太陽小腸経（19穴）	
8	中間試験	
9	足の太陽膀胱経（67穴）①	
10	足の太陽膀胱経（67穴）②	
11	足の少陰腎経（27穴）	
12	手の厥陰心包経（9穴）・手の少陽三焦経（23穴）	
13	足の少陽胆経（44穴）	
14	足の厥陰肝経（14穴）	
15	期末試験	60点以下のものには再試験を行う

鍼灸学科・昼間2部・1年（経絡経穴概論Ⅱ）

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。 本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき経絡経穴概論Ⅰの復習と経穴に相関している筋や支配神経等、各部位の横並びを学ぶ。臨床経験を持つ専任教員が取穴を行いながら患者さんに対する適応例や成功例、経穴の使い方などを踏まえて講義する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間2部・1年（経絡経穴概論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	奇経八脈	
2	奇穴	小テストを行う
3	経絡経穴Ⅰの復習	小テストを行う
4	経絡経穴Ⅰの復習	小テストを行う
5	要穴・骨度の復習	小テストを行う
6	4択練習問題	小テストを行う
7	中間試験	
8	胸腹部の解剖と経穴	
9	腰背部の解剖と経穴	小テストを行う
10	腕の解剖と経穴	小テストを行う
11	足の解剖と経穴	小テストを行う
12	頭の解剖と経穴	小テストを行う
13	まとめ	小テストを行う
14	期末試験練習問題	小テストを行う
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間2部・1年（あはきの適応の判断）

科目名	あはきの適応の判断	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学と東洋医学の基礎理論、および臨床の知識は、将来、医療現場で医療従事者として必要不可欠である。しかしながら臨床現場では、複合的な持病をもっている患者もやって来る。正しく対応するためには、正しい適応判断が必要である。当科目においては、臨床現場で正しく診断、そして質の高い診療活動が出来るよう、適応不適応の判断が出来るようになることが目的である。		
授業内容	「鍼灸不適応疾患の鑑別と対策」を参考書とし、「臨床医学各論」に記載されている疾患等が鍼灸の適応か不適応かを判断できるように、開業経験を持つ担当教員が実際に鍼灸院で起こった冷りハツとした事例など踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸不適応疾患の鑑別と対策	著者名	代田文彦ほか
		出版社名	医道の日本社

鍼灸学科・昼間2部・1年（あはきの適応の判断）

回	講義内容	備考
1	鍼灸治療の適応の条件および感染症	WHOの見解
2	消化器系疾患（肝・胆・膵の疾患含む）	症例①～③
3	呼吸器系疾患	症例④～⑥
4	泌尿器系疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患	症例⑦
5	整形外科疾患	徒手検査法
6	整形外科疾患	徒手検査法
7	整形外科疾患	症例⑧、⑨
8	整形外科疾患	症例⑩、⑪
9	整形外科疾患	症例⑫、⑬
10	整形外科疾患	症例⑭、⑮
11	循環器系疾患、血液・造血系疾患	症例⑯～⑰
12	神経系疾患	症例⑱～㉑
13	膠原病、その他の疾患	症例㉒～㉔
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・昼間2部・1年（生体観察）

科目名	生体観察	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。		
授業内容	<p>鍼灸師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。鍼灸の臨床経験をいかし、以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭顔面部 2. 頸部 3. 体幹 4. 上肢 5. 下肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間2部・1年（生体観察）

回	講義内容	備考
1	運動器とは	小テスト
2	上肢帯・肩	小テスト
3	上腕・前腕	小テスト
4	手	小テスト
5	上肢まとめ	小テスト
6	中間試験①	
7	大腿	小テスト
8	下腿	小テスト
9	足	小テスト
10	下肢まとめ	小テスト
11	中間試験②	
12	体幹	小テスト
13	頭顔頸部	小テスト
14	体幹・頭顔頸部まとめ	小テスト
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅰ）

科目名	基礎実技Ⅰ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>先ずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする</p>		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、消毒などの公衆衛生知識、鍼灸治療の過誤と副作用、予防、処置、挿管法（両手挿管法、片手挿管法）、刺鍼の知識（前揉法、押手、切皮、刺入、後揉法）、各種刺法とシリコンゴムへの刺入について学んでいく。</p> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指および刺鍼部の消毒	
3	鍼具の消毒法・滅菌法	
4	鍼治療の過誤と副作用、予防と処置	
5	現行刺鍼の方法（管鍼法の操作）	
6	刺鍼手技①（単刺術、直刺、斜刺、横刺）	
7	刺鍼手技②（置鍼術、雀啄術）	
8	刺鍼手技③（回旋術、旋撚術、刺鍼転向法）	
9	刺入の手順（各自の足への刺入）	
10	各自の足への刺入	
11	各自の足への刺入	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	刺入の手順（他人への手足への刺入）	
15	足への刺鍼（胃経への刺鍼）	
16	手への刺入（大腸経への刺鍼）	
17	足への刺入（脾経への刺鍼）	
18	手への刺入（心包経、三焦経への刺鍼）	
19	手足への刺鍼まとめ	
20	手足への刺鍼まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅱ）

科目名	基礎実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。 まずは施灸板で米粒大と半米粒大を正確に作成し、点火する。次に人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。		
授業内容	鍼灸の臨床現場で灸施術をどの様に使用しているか、治療効果など現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。 主に、以下の項目について学んでいく。 1. 灸の概要(起源、分類、製造過程、灸治療の過誤と副作用、予防、処置) 2. 練習板を使い、米粒大・半米粒大を5分間で20壮施灸 3. 有根灸(透熱灸、知熱灸〔瞬間灸〕) 4. 上肢の要穴の取穴と施灸。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指洗浄と消毒、板を使つての施灸練習	
3	艾炷の点火、5分で10壮練習	
4	5分で10壮練習	
5	5分で10壮練習	
6	5分で15壮練習	
7	5分で15壮練習	
8	到達試験①	
9	自分の身体への施灸	
10	5分で20壮練習	
11	5分で20壮練習	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	他人の身体への施灸	
15	他人の身体への施灸	
16	他人の身体への施灸	
17	他人の身体への施灸	
18	他人の身体への施灸	
19	他人の身体への施灸	
20	他人の身体への施灸	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅲ）

科目名	基礎実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>先ずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>経絡経穴概論と図解 鍼灸臨床手技マニュアルの教科書に基づき、基礎実技Ⅰの復習と手足の五要穴への正確な取穴と刺鍼を行う。臨床で最も多い肩・首・腰の主要経穴への刺鍼を行う。臨床経験を持つ専任教員が、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	基礎実技Ⅰの復習	
2	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(太陽経)	
3	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(少陽経)	
4	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(陽明経)	
5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(太陰経)	
6	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(少陰経)	
7	上肢・下肢の常用穴への刺鍼(厥陰経)	
8	まとめ	
9	中間試験練習	
10	中間試験①	
11	中間試験②	
12	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼①	
13	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼②	
14	腰部の常用穴の刺鍼①	
15	腰部の常用穴の刺鍼②	
16	頸部の常用穴の刺鍼①	
17	頸部の常用穴の刺鍼②	
18	背部、肩関節周囲の常用穴刺鍼のまとめ	
19	腰部の常用穴の刺鍼のまとめ	
20	頸部の常用穴の刺鍼	
21	期末試験練習	
22	期末試験①	
22.5	期末試験②	

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅳ）

科目名	基礎実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。 人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴・背部兪穴・募穴等に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。		
授業内容	開業経験を持つ担当教員が、実際の患者へ施していた赤羽刺法、澤田流灸法、深谷灸法などの各種灸法を、実践に即した形で学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間2部・1年（基礎実技Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	粗艾による知熱灸	
2	粗艾による知熱灸	
3	他人の下肢への施灸	脾経の原・郄・絡
4	他人の下肢への施灸	胃経の原・郄・絡
5	他人の下肢への施灸	腎経の原・郄・絡
6	他人の下肢への施灸	膀胱経の原・郄・絡
7	他人の下肢への施灸	肝経の原・郄・絡
8	他人の下肢への施灸	胆経の原・郄・絡
9	総合練習	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	背部への施灸	
13	背部への施灸	
14	背部への施灸	
15	腹部への施灸	
16	腹部への施灸	
17	腹部への施灸	
18	総合練習	
19	総合練習	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・昼間2部・1年（総合領域Ⅰ）

科目名	総合領域Ⅰ	時間・単位	180時間・6単位・90コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生に対し、1年次に学ぶすべての分野において総合的に復習し、ベースとなる基礎医学の修得を目的とする。また、医療者としての心得や東洋医学的思考の基礎づくりも合わせて行うものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業を行う。</p> <p>総合領域Ⅰ①：基礎学習 総合領域Ⅰ②：東洋医学領域の復習 総合領域Ⅰ③：西洋医学領域の復習</p> <p>上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅰ①～③それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間2部・1年（総合領域Ⅰ）

回	日付	講義内容	回	日付	講義内容	回	日付	講義内容
1	4/6	基礎学習①	31	6/29	東洋①	61	2/1	東洋⑯
2	4/6	基礎学習②	32	7/3	西洋①	62	2/2	西洋⑯
3	4/7	基礎学習③	33	7/6	東洋②	63	2/3	東洋⑰
4	4/7	基礎学習④	34	7/13	西洋②	64	2/4	西洋⑰
5	4/7	基礎学習⑤	35	7/17	東洋③	65	2/4	東洋⑱:中間試験②
6	4/8	基礎学習⑥	36	7/20	西洋③	66	2/5	西洋⑱:中間試験②
7	4/8	基礎学習⑦	37	7/27	東洋④	67	2/8	東洋⑲
8	4/10	基礎学習⑧	38	7/27	西洋④	68	2/9	西洋⑲
9	4/10	基礎学習⑨	39	7/31	東洋⑤	69	2/10	東洋⑳
10	4/10	基礎学習⑩	40	8/24	西洋⑤	70	2/10	西洋㉑
11	4/13	基礎学習⑪	41	8/25	東洋⑥	71	2/12	東洋㉒
12	4/17	基礎学習⑫	42	8/31	西洋⑥	72	2/15	西洋㉒
13	4/20	基礎学習⑬	43	8/31	東洋⑦	73	2/16	東洋㉓
14	4/24	基礎学習⑭	44	9/7	西洋⑦	74	2/17	西洋㉓
15	4/27	基礎学習⑮	45	9/7	東洋⑧	75	2/17	東洋㉔
16	5/8	基礎学習⑯	46	9/14	西洋⑧	76	2/18	西洋㉔
17	5/11	基礎学習⑰	47	9/14	東洋⑨:中間試験①	77	2/18	東洋㉕
18	5/15	基礎学習⑱	48	12/16	西洋⑨:中間試験①	78	2/19	西洋㉕
19	5/18	基礎学習⑲	49	12/21	東洋⑩	79	2/22	東洋㉖
20	5/22	基礎学習⑳	50	12/23	西洋⑩	80	2/24	西洋㉖
21	5/25	基礎学習㉑	51	1/6	東洋⑪	81	2/24	東洋㉗
22	5/29	基礎学習㉒	52	1/7	西洋⑪	82	2/25	西洋㉗
23	6/1	基礎学習㉓	53	1/13	東洋⑫	83	2/25	東洋㉘:期末試験
24	6/5	基礎学習㉔	54	1/15	西洋⑫	84	2/26	西洋㉘:期末試験
25	6/8	基礎学習㉕	55	1/18	東洋⑬	85	3/1	東洋㉙
26	6/12	基礎学習㉖	56	1/20	西洋⑬	86	3/3	西洋㉙
27	6/15	基礎学習㉗	57	1/25	東洋⑭	87	3/3	東洋㉚
28	6/19	基礎学習㉘	58	1/27	西洋⑭	88	3/4	西洋㉚
29	6/22	基礎学習㉙	59	1/28	東洋⑮	89	3/4	東洋㉛
30	6/26	基礎学習㉚	60	1/28	西洋⑮	90	3/5	西洋㉛

鍼灸学科・昼間部・2年（はりきゅう理論Ⅱ）

科目名	はりきゅう理論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	鍼灸の治効理論の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、「はりきゅう理論Ⅱ」では、「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえて、鍼灸刺激が生体にどのように作用するかについて、生理学と関連付けながら、治効理論を学んでいく。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえ、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、施術局所の反応、自律神経への影響、生体防御機能への影響、関連学説等を学習し、鍼灸療法の治効理論を理解していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（はりきゅう理論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	鍼灸治効の基礎 鍼灸刺激と反射	
2	鍼灸治効の基礎 鍼麻酔、鍼鎮痛	
3	鍼灸治効の基礎 鍼灸施術の治療的作用	
4	鍼灸療法の一般治効理論 自律神経の概要	
5	鍼灸療法の一般治効理論 化学伝達物質、受容体	
6	鍼灸療法の一般治効理論 鍼の血流に及ぼす影響	
7	中間試験	
8	解説とまとめ	
9	鍼灸療法の一般治効理論 鍼灸刺激とポリモーダル受容器	
10	鍼灸療法の一般治効理論 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響Ⅰ	
11	鍼灸療法の一般治効理論 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響Ⅱ	
12	関連学説 サイバネティックス、ホメオスターシス	
13	関連学説 ストレス学説	
14	関連学説 レイリー現象、圧発汗反射	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学概論Ⅲ）

科目名	東洋医学概論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床は、四診法（望・聞・問・切診）を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。</p> <p>そこで、伝統鍼灸治療を行う上で必要な四診法、弁証論治を習得する。</p> <p>先ず、診察に必要な医療面接技法を学び、次に望診、聞診、問診、切診と四診法を習得し、最終的には、四診所見から弁証できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1. 医療面接技法</p> <p>2. 四診法（望診、聞診、問診、切診）</p> <p>3. 弁証論治（治則、治法、配穴）</p> <p>以上の項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などのアドバイスをし、習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下</p>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学概論Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	望診	
2	聞診	
3	問診①	
4	問診②	小テスト
5	問診③	
6	問診④	
7	中間テスト	1～6回
8	切診①	
9	切診②	
10	切診③	
11	論治	小テスト
12	治療法の概要	
13	三刺、五刺、九刺、十二刺、鍼灸の補瀉法	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅰ）

科目名	東洋医学臨床論Ⅰ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山賀 真知子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。 1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療 ① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゆう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	治療原則と治療計画、腰部の解剖・関節炎	課題提出や小テストを実施することがある。
2	腰下肢痛①	
3	腰下肢痛②	
4	腰下肢痛③	
5	股関節の解剖、股関節痛	
6	膝関節の解剖、膝関節痛	
7	下肢の疾患①	
8	下肢の疾患②、腰下肢痛のまとめ	
9	中間試験	
10	頸部解剖	
11	神経学的診断	
12	頸椎疾患と治療①	
13	頸椎疾患と治療②	
14	頸椎疾患と治療③	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅱ）

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	1年次の東洋医学概論Ⅰおよび東洋医学概論Ⅱで学習した東洋医学理論を応用し、臨床で遭遇しやすい疾患の東洋的臨床に活用するための知識の習得を目的とする。		
授業内容	東洋医学概論で学習した理論を応用しながら、 1. 各疾患の弁証 2. 各疾患の論治（治則・治法） 3. 各疾患の処法（配穴法） 以上の項目について担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをし、学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	針灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	腹痛、悪心・嘔吐、便秘・下痢	
2	咳と痰、呼吸困難、動悸	
3	高血圧、低血圧、胸痛	
4	めまい、耳鳴り、難聴	小テスト
5	鼻閉・鼻汁、眼精疲労	
6	排尿障害、ED、月経異常	
7	中間テスト	1～6回
8	頸肩腕通、肩こり、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛	
9	運動麻痺、末梢神経麻痺	
10	頭痛、顔面痛、不眠症	
11	うつ病、冷え症、のぼせ	小テスト
12	肥満、やせ、	
13	脱毛症、かゆみ	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅲ）

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山賀 真知子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。 1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療 ① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゆう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

鍼灸学科・昼間部・2年（東洋医学臨床論Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	肩こり	課題提出や小テストを実施することがある。
2	胸郭出口症候群	
3	肩関節の解剖	
4	肩関節疾患①	
5	肩関節疾患②、上腕二頭筋長頭腱炎	
6	肩部の治療、肘関節の解剖、肘関節の疾患	
7	手部の解剖、腱鞘炎	
8	中間試験	
9	絞扼神経障害①	
10	絞扼神経障害②	
11	絞扼神経障害③	
12	頭痛	
13	顔面神経麻痺、顎関節症	
14	期末試験	
15	試験解説	

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅰ）

科目名	応用実技Ⅰ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	富永 敦		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい腰下肢痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>腰殿部や下肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には各種所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の点について学んでいく。</p> <p>①低周波鍼通電療法の基礎。②腰下肢痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント。③腰下肢痛に対する施術。④刺鍼深度・角度の調整。</p> <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸療法技術ガイド	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習①	
2	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習②	
3	低周波鍼通電療法の基礎(前脛骨筋、長腓骨筋)①	
4	低周波鍼通電療法の基礎(前脛骨筋、長腓骨筋)②	
5	筋・筋膜性腰痛	
6	腰椎椎間板ヘルニア①	
7	腰椎椎間板ヘルニア②	
8	腰椎椎間板ヘルニア③	
9	腰部脊柱管狭窄症	
10	椎間関節性腰痛	
11	変形性腰椎症	
12	梨状筋症候群	
13	変形性膝関節症	
14	低周波鍼通電療法まとめ①	
15	低周波鍼通電療法まとめ②	
16	腰下肢治療まとめ①	
17	腰下肢治療まとめ②	
18	中間試験①	
19	中間試験②	
20	腰下肢治療まとめ③	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅱ）

科目名	応用実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床において遭遇しやすい症例を学び、診察法・治療法を理解し適切な鍼灸治療法を体得する。 最終的には医療面接から患者の状態を判断し、弁証論治し、的確な施術をできることを目標とする。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 1.診察法 2.弁証 3.配穴 4.症例に対するロールプレイ		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	鍼灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	腹痛	
2	頭痛	
3	ロールプレイ	
4	うつ病	
5	下痢	
6	便秘	
7	ロールプレイ	
8	咳と痰	
9	鼻閉・鼻汁	
10	中間試験①	1～9回
11	中間試験②	1～9回
12	めまい	
13	耳鳴・難聴	
14	高血圧	
15	ロールプレイ	
16	眼精疲労	
17	月経痛（月経困難症）	
18	ロールプレイ	
19	まとめ	
20	まとめ	
21	期末試験①	1～17回
22	期末試験②	1～17回
22.5	期末試験③	1～17回

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅲ）

科目名	応用実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい頸肩部痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。先ずは、低周波鍼通電療法を学び、次に頸肩部や上肢肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、低周波鍼通電療法（パルス）の基礎、頸肩部痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント、頸肩部の理学検査、神経学的検査、頸肩部痛に対する施術（病態把握と治療目的）、症例に対するロールプレイについて学んでいく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸療技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	頸部・肩関節の触診①	
2	頸部・肩関節の触診②、肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）①	
3	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）②	
4	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷①	
5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷②	
6	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷③	
7	上腕二頭筋長頭腱炎①	
8	上腕二頭筋長頭腱炎②	
9	胸郭出口症候群①	
10	胸郭出口症候群②	
11	頸椎椎間板ヘルニア①	
12	頸椎椎間板ヘルニア②	
13	頸椎椎間板ヘルニア③	
14	上腕骨外側上顆炎	
15	頸肩部治療まとめ	
16	頸肩部治療まとめ	
17	頸肩部ロールプレイ	
18	頸肩部ロールプレイ	
19	中間試験①	
20	中間試験②	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅳ）

科目名	応用実技Ⅳ	時間・単位	1単位・45時間(22.5コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	伝統医学における鍼灸臨床は四診法を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。応用実技Ⅱで学習した内容に加え、応用実技Ⅳにおいては、四診より弁証論治を導きだし、自分で処方・配穴・治療ができることを目標とする。		
授業内容	1)弁証 2)論治(治則・治法) 3)処方(配穴法・特効穴) について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（応用実技Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	肝鬱気滞の処方・配穴・治療	
2	肝火上炎の処方・配穴・治療	
3	肝血虚の処方・配穴・治療	
4	脾气虚の処方・配穴・治療	
5	脾陽虚の処方・配穴・治療	
6	胃火上炎の処方・配穴・治療	
7	胃陰虚の処方・配穴・治療	
8	まとめ	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	食滞胃脘の処方・配穴・治療	
12	肺气虚の処方・配穴・治療	
13	風熱犯肺の処方・配穴・治療	
14	風寒犯肺の処方・配穴・治療	
15	痰湿阻肺の処方・配穴・治療	
16	腎陽虚の処方・配穴・治療	
17	肝脾不和の処方・配穴・治療	
18	肝火犯肺の処方・配穴・治療	
19	脾腎陽虚の処方・配穴・治療	
20	まとめ	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

鍼灸学科・昼間部・2年（総合実技Ⅰ）

科目名	総合実技Ⅰ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	富永 敦 ・ 長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>総合実技Ⅰ－① 臨床実習Ⅰ・Ⅱで必要となる理学所見を学ぶ。</p> <p>総合実技Ⅰ－② ・四診法（望・聞・問・切）の内容を学び理解を深め、正常・健康状態を知り、異常状態時と区別をできるように、最終的には東洋医学的診断法を習得する。 ・医療面接時に必要なコミュニケーション能力の向上をはかる。</p>		
授業内容	<p>臨床現場ではどの様に診察を進めるのか、実際の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>総合実技Ⅰ－① 1. 理学検査</p> <p>総合実技Ⅰ－② 1. 望診（顔面診・舌診）、2. 聞診（声診・気味）、3. 問診、4. 切診（脈診・背候診・腹診・経穴診）</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実技Ⅰ①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	配付資料	著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（総合実技Ⅰ）

回	総合実技Ⅰ－①講義内容	回	総合実技Ⅰ－②講義内容
1	反射検査①	1	東洋医学的診察法①（四診とは）
2	反射検査②	2	東洋医学的診察法②（望診①）
3	頸部の理学検査①	3	東洋医学的診察法③（望診②・聞診）
4	頸部の理学検査②	4	東洋医学的診察法④（問診①）
5	肩部の理学検査①	5	東洋医学的診察法⑤（問診②）
6	肩部の理学検査②	6	東洋医学的診察法⑥（問診③）
7	腰背部の理学検査①	7	東洋医学的診察法⑦（切診①）
8	腰背部の理学検査②	8	東洋医学的診察法⑧（切診②）
9	膝関節の理学検査①	9	東洋医学的診察法⑨（切診③）
10	膝関節の理学検査②	10	期末試験①
11	中間試験①	11	期末試験②
11.5	中間試験②		
備考			

鍼灸学科・昼間部・2年（臨床実習Ⅰ）

科目名	臨床実習Ⅰ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	既習の「基礎実技」「解剖学」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」等の知識と技術を総合し診察・治療の方法を学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に選穴、鍼・灸の手技、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習、症例に対するロールプレイを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（臨床実習Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・昼間部・2年（臨床実習Ⅱ）

科目名	臨床実習Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床実習Ⅰで学んだことを生かし、ロールプレイや実際に外来患者を取り扱うことにより3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮について学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握し原因の推定、カルテの記載を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（臨床実習Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・昼間部・2年（総合領域Ⅱ）

科目名	総合領域Ⅱ	時間・単位	150時間・5単位・75コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、2年次に学ぶすべての分野において総合的に復習するもので、専門基礎分野では解剖学、生理学を再度復習し、これらをベースに病態生理を把握し、臨床医学総論と各論を習得する。また、専門分野においては東洋医学概論を復習し、東洋医学臨床論を習得するものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業を行う。</p> <p>総合領域Ⅰ①：実力テスト(中間試験9回、期末試験の計10回の試験)とまとめ5回 総合領域Ⅰ②：東洋医学領域の復習 総合領域Ⅰ③：西洋医学領域の復習</p> <p>上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅰ①～③それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間部・2年（総合領域Ⅱ）

日付	回	内容	日付	回	内容	日付	回	内容
4/7	1	中間試験①(実テ①)	11/19	31	西洋⑫	2/12	61	東洋⑳
5/12	2	中間試験②(実テ②)	11/26	32	東洋⑬	2/12	62	西洋㉑
6/9	3	中間試験③(実テ③)	11/26	33	西洋⑬	2/18	63	東洋㉒
6/18	4	東洋①	12/3	34	東洋⑭	2/18	64	西洋㉒
6/25	5	西洋①	12/3	35	西洋⑭	2/19	65	東洋㉓
7/2	6	東洋②	12/8	36	中間試験⑧(実テ⑧)	2/19	66	西洋㉓
7/7	7	中間試験④(実テ④)	12/10	37	東洋⑮	2/25	67	東洋㉔: 期末試験
7/9	8	西洋②	12/11	38	西洋⑮	2/25	68	西洋㉔
7/16	9	東洋③	12/17	39	東洋⑯	2/26	69	東洋㉕
7/28	10	西洋③	12/18	40	西洋⑯	2/26	70	西洋㉕: 期末試験
7/30	11	東洋④	12/22	41	東洋⑰	3/2	71	まとめ①
8/25	12	中間試験⑤(実テ⑤)	12/24	42	西洋⑰	3/4	72	まとめ②
8/25	13	西洋④	12/25	43	東洋⑱	3/4	73	まとめ③
8/27	14	東洋⑤	1/8	44	西洋⑱	3/5	74	まとめ④
9/1	15	西洋⑤	1/12	45	中間試験⑨(実テ⑨)	3/5	75	まとめ⑤
9/3	16	東洋⑥	1/12	46	東洋⑲			
9/7	17	西洋⑥	1/14	47	西洋⑲			
9/8	18	東洋⑦	1/15	48	東洋㉖: 中間試験②			
9/10	19	西洋⑦	1/19	49	西洋㉖: 中間試験②			
9/14	20	東洋⑧	1/21	50	東洋㉗			
9/15	21	西洋⑧	1/22	51	西洋㉗			
9/17	22	東洋⑨: 中間試験①	1/28	52	東洋㉘			
9/24	23	西洋⑨: 中間試験①	1/28	53	西洋㉘			
10/6	24	中間試験⑥(実テ⑥)	1/29	54	東洋㉙			
10/6	25	東洋⑩	1/29	55	西洋㉙			
10/13	26	西洋⑩	2/2	56	期末試験(実テ⑩)			
10/20	27	東洋⑪	2/4	57	東洋㉚			
11/5	28	西洋⑪	2/4	58	西洋㉚			
11/10	29	中間試験⑦(実テ⑦)	2/5	59	東洋㉛			
11/12	30	東洋⑫	2/5	60	西洋㉛			

鍼灸学科・昼間部・3年（関係法規）

科目名	関係法規	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はり師、きゅう師として業務に従事するうえで、「あん摩マッサージ指圧師はり師、きゅう師等に関する法律」と、その業務と、医療従事者として必要な医事福祉関係法規を理解する。		
授業内容	法制度の沿革を通して鍼灸の現状を知り、医療従事者としての鍼灸師の法的位置づけを学び、今後、鍼灸師として業務にあたる際に必要な法制度を、臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	
		出版社名	
参考書	関係法規	著者名	東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間部・3年（関係法規）

回	講義内容	備考
1	免許と試験、業務範囲	
2	施術所に関する規則、広告の制限	
3	医療法、確認問題	
4	医療従事者、薬事法	
5	保健・予防衛生、社会福祉関係法規	
6	社会保険関係法規、関連医事用語の解説	
7	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・3年（社会保障および職業倫理）

科目名	社会保障および職業倫理	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療概論と関係法規の内容を踏まえ、国家試験に向けての最新情報を知り、はり師、きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	医療概論と関係法規の国家試験対策として最新の情報を四択問題を解きながら覚え、はり師、きゅう師として必要な医療保障や医療倫理、あはき法などを、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論・関係法規	著者名	中川米造監修・東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・昼間部・3年（社会保障および職業倫理）

回	講義内容	備考
0.5	医療概論の国試対策	
1.5	医療概論の国試対策	
2.5	医療概論の国試対策	
3.5	関係法規の国試対策	
4.5	関係法規の国試対策	
5.5	関係法規の国試対策	
6.5	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・3年（東洋医学臨床論Ⅳ）

科目名	東洋医学臨床論Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	国家試験における東洋医学概論・東洋医学臨床論の総復習並びに、それらの問題を解答する過程で東洋医学の知識を多用する問題の得点率を引き上げることがを目的とする。		
授業内容	臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをし、東洋医学理論の基礎である陰陽・五行・精気血津液の諸学説及び蔵象・病因論・病理病証・診断論・治療論並びに臨床の複合問題を総復習を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間部・3年（東洋医学臨床論Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	生体物質（精・気・血・津液）	
2	蔵象①	
3	蔵象②	
4	病因（外因・内因・不内外因）	小テスト
5	陰陽・五行学説	
6	四診	
7	弁証論治	
8	中間テスト	1～7回
9	東洋医学臨床論①	各疾患の弁証論治
10	東洋医学臨床論②	各疾患の弁証論治
11	東洋医学臨床論③	各疾患の弁証論治 小テスト
12	東洋医学臨床論④	各疾患の弁証論治
13	東洋医学臨床論⑤	各疾患の弁証論治
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

鍼灸学科・昼間部・3年（東洋医学臨床応用）

科目名	東洋医学臨床応用	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学的な考えとは、現代医学の知識・技術などを鍼灸の診察、治療に応用しようとする考え方である。現代医学的な考え方をもとに鍼灸治療の対象となる疾患について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、必要な診察法の過程に主要な徒手検査法を学び、適切な鍼灸治療を行うための知識を習得させることを教育目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で主に、治療と診断、症候に対する東西両医学からのアプローチ、疾患に対する東西両医学からのアプローチ 高齢者に対する鍼灸施術、スポーツ領域における鍼灸施術について学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学臨床論（はりきゅう編）	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（東洋医学臨床応用）

回	講義内容	備考
1	神経・筋疾患①	
2	神経・筋疾患②	
3	神経・筋疾患③	
4	運動器疾患①	
5	運動器疾患②	
6	運動器疾患③	
7	中間試験	
8	スポーツ障害①	
9	スポーツ障害②	
10	呼吸器疾患、循環器疾患	
11	消化器疾患、腎・泌尿器疾患	
12	婦人科疾患、耳鼻咽喉疾患、老年医学	
13	診断と治療、その他の疾患、検査法	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・3年（病態生理学）

科目名	病態生理学	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、病理学等の基礎医学について、再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	病理学概論を中心とした病因や病態について復習するとともに、多くの練習問題などを活用し実践的に知識の再確認を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（病態生理学）

回	講義内容	備考
1	病因、退行性病変1	
2	循環障害、進行性病変1	
3	炎症、免疫1	
4	腫瘍、先天性疾患1	
5	まとめ試験1	
6	病因、退行性病変2	
7	循環障害、進行性病変2	
8	炎症、免疫2	
9	腫瘍、先天性疾患2	
10	まとめ試験2	
11	病因、退行性病変3	
12	循環障害、進行性病変3	
13	炎症、免疫3	
14	腫瘍、先天性疾患3	
15	まとめ試験3(終)	

鍼灸学科・昼間部・3年（社会はりきゅう学）

科目名	社会はりきゅう学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はりきゅう理論Ⅰ・はりきゅう理論Ⅱを踏まえ、鍼灸臨床での用具、手技、作用機序及び人体の生理学等について更なる理解力と応用力を身につける。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で過去に出題された「はり理論」と「きゅう理論」の国家試験問題等を活用し、より一層の理解を計る。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（社会はりきゅう学）

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用、リスク管理	
7	中間試験	
8	鍼灸治効の基礎	
9	鍼灸治効の基礎	
10	鍼灸療法の一般治効理論	
11	鍼灸療法の一般治効理論	
12	関連学説	
13	関連学説	
14	まとめ	
15	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅰ）

科目名	臨床実技Ⅰ	時間・単位	1単位・45時間(22.5コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	実際の臨床において、遭遇しやすい症状を取り上げて、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	レディース鍼灸の中でも、月経異常や不妊症など女性特有の症状や美容鍼灸について重点的に学び、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	レディース鍼灸	著者名	矢野 忠
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅰ）

回	講義内容	備考
1	ROM、皮膚分節、知覚検査	
2	深部腱反射、病的反射、MMT	
3	TOSの概要、検査、TOSの治療	
4	手根管、肘部管、Guyon管症候群	
5	思春期のマイナートラブル	
6	思春期のマイナートラブル	
7	性成熟期のマイナートラブル	
8	性成熟期のマイナートラブル	
9	妊娠期のマイナートラブル	
10	妊娠期のマイナートラブル	
11	更年期・老年期のマイナートラブル	
12	更年期・老年期のマイナートラブル	
13	神経痛	
14	顎関節症、眼精疲労	
15	美容鍼灸	
16	美容鍼灸	
17	治療のまとめ①	
18	治療のまとめ②	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅱ）

科目名	臨床実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。高齢者に多い疾患の後遺症、筋力低下による歩行速度低下など老年特有の症状、各疾患の鑑別に必要な理学所見を復習し、最終的には、模擬患者に対し医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、常に治療前後での主訴の変化（指標の変化）を意識して行う。鍼灸初療者、高齢者に対する対応ができるようにする。</p>		
授業内容	<p>高齢や身体が不自由な方のケアなどを担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>臨床現場に出た際に即戦力となる授業を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	頭痛	
2	肩こり	
3	めまい・耳鳴り・難聴	
4	ロールプレイ①	
5	脳卒中後遺症	
6	運動器疾患①	
7	排尿障害	
8	便秘・下痢	
9	運動器疾患②	
10	ロールプレイ②	
11	中間試験①	
12	中間試験①	
13	うつ	
14	認知症	
15	パーキンソン病	
16	带状疱疹	
17	ロールプレイ③	
18	治療まとめ	
19	中間試験②	
20	中間試験②	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	治療まとめ	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅲ）

科目名	臨床実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	富永 敦		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	スポーツ領域の愁訴を現代鍼灸の立場から把握することを目的とする。そのために、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	主に、以下の点について学んでいく。 ①スポーツ傷害・障害などのスポーツ特有の症状を理解する。②スポーツ領域の愁訴を現代医学的に把握する。 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸療法技術ガイド	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	スポーツ傷害に対する治療方針	
2	野球肩の診察	
3	上腕骨外側上顆炎の診察	
4	上腕骨内側上顆炎の診察	
5	肉離れ(大腿後面)の診察	
6	運動性腰痛の診察	
7	頸部椎間板ヘルニアの診察	
8	腰部椎間板ヘルニアの診察	
9	膝靭帯損傷の診察	
10	ジャンパー膝(膝蓋腱炎)の診察	
11	ランナー膝(腸脛靭帯炎)の診察	
12	鷲足炎の診察	
13	シンスプリント(脛骨過労性骨膜炎)の診察	
14	オスグッド病の診察	
15	アキレス腱炎の診察	
16	足底筋膜炎の診察	
17	足関節捻挫の診察	
18	スポーツ疾患まとめ①	
19	スポーツ疾患まとめ②	
20	スポーツ疾患まとめ③	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅳ）

科目名	臨床実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床に必要な、四診法を行い、弁証論治に基づき、自分なりの処方と配穴で治療を行い、治療前後での主訴の変化（指標の変化）を確認する。</p> <p>先ず、四診法から弁証論治を行い、次に要穴や五俞穴の特性、経絡・経筋等を理解し、最終的には、伝統医学的に病態を把握し、基礎理論に基づき配穴治療できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <p>1. 四診法と指標の変化・2. 経絡流注・3. 難経六十八難・4. 難経六十九難 5. 経筋治療（経筋の流注、滎穴と俞穴の特性）・6. 変動経絡検索法（井穴、経穴、下合穴、絡穴の特性）・7. 奇経治療（流注と八総穴）・8. その他の治療法。これらの項目を臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実技Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	脊柱の取り方	脊柱の取り方
2	四診法による診断、弁証論治・配穴	
3	四診法による診断、愈募配穴	
4	四診法による診断、郄会配穴	
5	四診法による診断、その他の配穴①	
6	四診法による診断、その他の配穴②	
7	四診法による診断、その他の配穴③	
8	四診法による診断、要穴を用いた治療①	
9	四診法による診断、要穴を用いた治療②	
10	中間試験	レポート提出
11	東洋医学的診断・治療①	
12	東洋医学的診断・治療②	
13	東洋医学的診断・治療③	
14	東洋医学的診断・治療④	
15	東洋医学的診断・治療⑤	
16	東洋医学的診断・治療⑥	
17	東洋医学的診断・治療⑦	
18	期末試験の概要	
19	期末試験の練習	
20	期末試験の練習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合実技Ⅱ）

科目名	総合実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	岸野 庸平 ・ 北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で実際に使われている手技や治療機器等を理解、実践することにより、鍼灸治療に必要な技術向上を図る。		
授業内容	手技療法や超音波治療など臨床現場で卒業後必要とされる知識を身につける。鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実技Ⅱ①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合実技Ⅱ）

回	講義内容	備考
1	手技療法の概要	総合実技Ⅱ①
2	手技療法の基礎1	総合実技Ⅱ①
3	手技療法の基礎2	総合実技Ⅱ①
4	手技療法の基礎3	総合実技Ⅱ①
5	手技療法の基礎4	総合実技Ⅱ①
6	手技療法の基礎5	総合実技Ⅱ①
7	手技療法の応用1	総合実技Ⅱ①
8	手技療法の応用2	総合実技Ⅱ①
9	手技療法と鍼灸治療について	総合実技Ⅱ①
10	手技療法と鍼灸治療について	総合実技Ⅱ①
11	低周波治療器の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
12	低周波治療器の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
13	干渉派治療器の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
14	干渉派治療器の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
15	温罨法と冷罨法	総合実技Ⅱ②
16	超音波の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
17	超音波の使い方と効果	総合実技Ⅱ②
18	マイクロ波の使い方と効果、注意点	総合実技Ⅱ②
19	牽引機の使い方と効果 注意点	総合実技Ⅱ②
20	足関節の包帯の巻き方	総合実技Ⅱ②
21	期末試験	総合実技Ⅱ②
22	期末試験	総合実技Ⅱ②
22.5	まとめ	総合実技Ⅱ②

鍼灸学科・昼間部・3年（総合実技Ⅲ）

科目名	総合実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	近年国家試験では、「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」にて経穴名だけでなく、取穴部位、または取り方にて出題される傾向にある。そこで実際に正経十二経・奇経八脈の経穴に取穴・刺鍼・施灸を行い、取穴部位・取り方を習得する。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 1. 正経十二経・奇経八脈・奇穴の取穴 2. 正経十二経・奇経八脈・奇穴の刺鍼		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合実技Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	手太陰肺経・手少陰心経の部位・筋肉・神経・作用	
2	手陽明大腸経の部位・筋肉・神経・作用	
3	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	
4	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	
5	足太陰脾経の部位・筋肉・神経・作用	
6	手太陽小腸経の部位・筋肉・神経・作用	
7	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
8	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
9	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	足少陰腎経の部位・筋肉・神経・作用	
13	手厥陰心包経・足厥陰肝経の部位・筋肉・神経・作用	
14	手少陽三焦経の部位・筋肉・神経・作用	
15	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	
16	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	
17	督脈の部位・筋肉・神経・作用	
18	任脈の部位・筋肉・神経・作用	
19	奇穴の部位・筋肉・神経・作用	
20	奇経八脈の概要	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実習Ⅲ）

科目名	臨床実習Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画（選穴、鍼・灸の手技）、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実習Ⅲ）

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実習Ⅳ）

科目名	臨床実習Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画（選穴、鍼・灸の手技）、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（臨床実習Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域Ⅲ）

科目名	総合領域Ⅲ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	北林 亜由美 ・ 松岡 晋也 ・ 岸野 庸平		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	専門基礎分野および専門分野の総復習をし、 国家試験の合格に必要な知識を習得する事を目的とする。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 ・総合領域Ⅲ①:臨床医学総論・臨床医学各論 ・総合領域Ⅲ②:東洋医学概論・東洋医学臨床論		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅲ①と②のそれぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・それぞれ担当の教員において60点以上を合格とする。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	臨床医学総論 臨床医学各論 東洋医学概論	著者名	奈良信雄 他 教科書執筆小委員会
		出版社名	医歯薬出版株式会社 医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域Ⅲ）

回	講義内容①	回	講義内容②	備考
1	合同模試①	1	気血津液弁証	
2	合同模試①	2	臓腑弁証	
3	合同模試①解説	3	六経弁証	小テスト
4	診察の概要と方法・生命徴候	4	複合弁証	
5	全身の診察	5	治法	
6	局所の診察	6	中間試験	1～5回
7	神経系の診察	7	十二経脈病証①	
8	運動機能検査・その他の領域・臨床検査法	8	十二経脈病証②	
9	おもな症状の診察	9	奇経八脈病証	小テスト
10	中間試験	10	合同模試④	
11	整形外科疾患	11	合同模試④	
12	整形外科疾患	12	合同模試④解説	
13	その他の領域の疾患	13	奇穴	
14	その他の領域の疾患	14	まとめ	
15	期末試験	15	期末試験	1～9, 13～14 回

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域Ⅳ）

科目名	総合領域Ⅳ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	岸野 庸平		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で医療概論・公衆衛生学・関係法規・解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・はりきゅう理論等について講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域Ⅳ）

回	講義内容	備考
1	第1回中間試験	
2	第1回中間試験	
3	第1回中間試験解説	
4	第2回中間試験	
5	第2回中間試験	
6	第2回中間試験解説	
7	第3回中間試験	
8	第3回中間試験	
9	第3回中間試験解説	
10	第4回中間試験(合同模試②)	
11	第4回中間試験(合同模試②)	
12	第4回中間試験(合同模試②)解説	
13	第5回中間試験	
14	第5回中間試験	
15	第5回中間試験解説	
16	第6回中間試験	
17	第6回中間試験	
18	第6回中間試験解説	
19	第7回中間試験(合同模試③)	
20	第7回中間試験(合同模試③)	
21	第7回中間試験(合同模試③)解説	
22	第8回中間試験	
23	第8回中間試験	
24	第8回中間試験解説	
25	第9回中間試験	
26	第9回中間試験	
27	第9回中間試験解説	
28	期末試験	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域V）

科目名	総合領域V	時間・単位	120時間・4単位・20コマ
担当教員	伊藤 才二・富永 敦		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習する。それらに基づいて臨床医学に関する知識を確かなものにすることを教育目標とする。		
授業内容	<p>主に、以下の点について学んでいく。</p> <p>①解剖学・生理学などの基礎医学の知識を使用して、臨床医学を理解する。</p> <p>②臨床現場で他の医療資格者との円滑なコミュニケーションの基礎となる現代医学の基礎を復習する。</p> <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域V①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

鍼灸学科・昼間部・3年（総合領域V）

回	講義内容①	回	講義内容①	回	講義内容②
1	人体の構成	21	生理学の基礎	1	消化管疾患①
2	骨格系①(概要、脊柱、胸郭)	22	血液	2	消化管疾患②
3	骨格系②(上肢の骨、下肢の骨)	23	循環①	3	肝・胆・膵疾患①
4	骨格系③(頭蓋骨)	24	循環②	4	肝・胆・膵疾患②
5	筋系①(概要、頭頸部の筋)	25	呼吸	5	循環器疾患①
6	筋系②(上肢の筋)	26	消化と吸収	6	循環器疾患②
7	筋系③(下肢の筋)	27	代謝	7	内分泌疾患
8	解剖学系中間試験	28	体温	8	代謝・栄養疾患
9	循環器系①(心臓)	29	生理学系中間試験	9	感染症
10	循環器系②(動脈、静脈、リンパ系、胎児循環)	30	排泄	10	中間試験
11	呼吸器系	31	内分泌①	11	膠原病
12	消化器系①(消化管)	32	内分泌②	12	呼吸器疾患
13	消化器系②(肝臓、胆のう、膵臓、腹膜後器官)	33	生殖と成長	13	血液・造血器疾患①
14	泌尿器系	34	神経①	14	血液・造血器疾患②
15	生殖器系	35	神経②	15	腎・尿器疾患①
16	内分泌系	36	筋	16	腎・尿器疾患②
17	神経系①(中枢神経系)	37	身体の運動	17	神経疾患①
18	神経系②(末梢神経、自律神経)	38	感覚器系	18	神経疾患②
19	感覚器系	39	生体の防御機構・ホメオスタシスと生体リズム	19	期末試験
20	解剖学系期末試験	40	生理学系期末試験	20	期末試験解説